



NPO 法人

首都東京みなと創り研究会

東京都練馬区西大泉3丁目13番44号

理事長 小倉 健 男

<http://tokyo-port.news.coocan.jp/>

東日本大震災で被災された皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を祈念いたします。

講演会の開催と講演集の発行

岡山大学の津守貴之准教授による講演会「港湾法改正と今後の対応」は7月7日に東京港湾福利厚生センター大会議室において開催されました。当日はNPO会員を始めとして、東京港運協会の組合員や東京都港湾局、東京港埠頭

株式会社の職員等100名を超える参加者が聴講されました。なお、遅くなりましたが、講演録が出来上がりましたので、会員の皆様には送付します。講演録の目次は以下の通りです。

（目次）

- 1、改正港湾法の内容・特徴とそれが持つ意味
 1. 1 改正港湾法の内容
 1. 2 改正港湾法の特徴
 - 1) 中途半端な国営港湾化
 - 2) カモフラージュとしての「民営化」
 - 3) あいまいな国営港湾化と「民営化」
 1. 3 改正港湾法が持つ意味
 - 1) 二重の意味での二元的管理体制
 - 2) カモフラージュとしての「民営化」の反作用
 - 3) 東京港にとっての意味
- 2、港湾法改正プロセスの特徴と背景
 2. 1 議論なしで政策決定
 2. 2 港湾法改正の背景
 2. 3 関係組織の動向
 - 1) 行政機関
 - 2) 港湾関係組織
 - 3) 港湾ユーザー
 - 4) 全体構図
- 3、改正港湾法への今後の対応
 3. 1 前提としての改正港湾法の成立と東京都がかかっている状況
 3. 2 今後の対応のポイント
 - 1) 港湾管理・運営に関する基本方針の整理の明確化
 - 2) 港湾内外での連携の体制の構築

質疑



NPO法人「首都東京みなと創り研究会」講演会

「港湾法の改正と今後の対応」



講師 岡山大学 津守貴之氏

日時 2011年7月7日

会場 東京港湾福利厚生センター



東京港コンテナ貨物量は富士山とともに日本一

14 号地海岸線調査

港湾工事イメージアップ事業

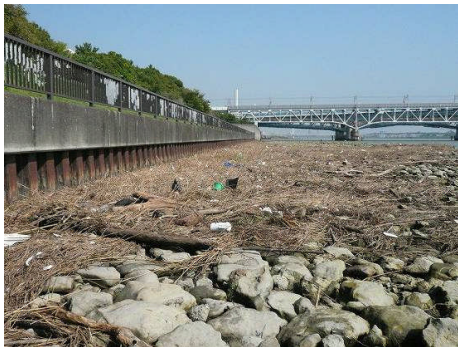
葦原を覆う大量のあし

今年は、環境部会員の林、室井、高野の3名での調査となりました。(平成23年9月10日)

毎年最初の調査地点となる東側海岸の葦原のあったところは、大量のあし、ごみなどで覆われていました。海岸に降りて、詳細に観察すると、大量の枯れたあしやゴミの下には緑の葉が見え、さらに新しいあしの芽も出てきていることから、いずれ従来の姿に再生すると思われます。

さらに、今回の特徴としてカニの数が減っていること、特に陸側のベンケイガニ類が顕著でした。また、ここ3年確認されていたトビハゼは今回確認できませんでした。

↓平成23年9月10日の葦原の状態



↓平成23年11月9日の葦原の状態(異常潮位)



原因については、判然としませんが、大雨による出水の影響ではないかと思われます。平成20年にも9月に調査を行っていますので、調査時期によるものではなさそうです。

毎年行っている若洲橋下での釣りによる調査では、例年良く釣れるハゼが全くかかりません。調査員の腕というよりは、ワンドがなくなったことと水が濁っていたことによるものと思われます。

海側から観察した東側護岸は、3月の大地震による影響らしきものは見られませんでした。建設から30～40年経過しており、何らかの手当てが必要な時期に来ていると考えられます。

東京都港湾局では、首都圏四千万人の生活と産業を支える東京港とそれを建設してきた港湾工事への理解を都民に理解をしてもらうためのイメージアップ事業を昨年から3回実施しています。当NPOは港湾局からの協力依頼に基づき昨年参加しています。

本年は、晴海四丁目防潮護岸建設工事の事業で、晴海の護岸建設現場でのケーソン敷設状況の船による海からの見学及び東京港内の埠頭等の施設の見学を10月22日に行いました。参加者は晴海連合町会の皆様で、大きなコンクリートケーソンが海に浮くことやコンテナ船の巨大さ等に関心していました。

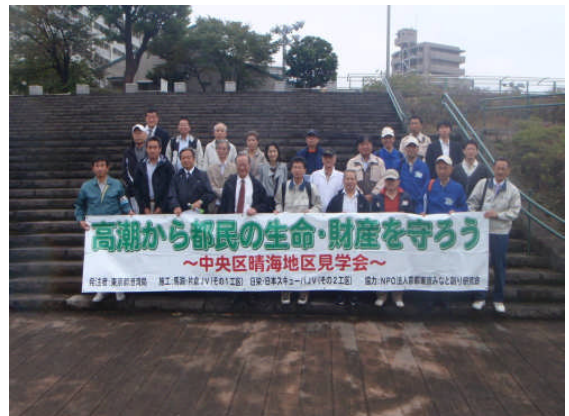
↓(船内の様子)



↓(船の上の様子)



↓(イメージアップ事業の参加者)

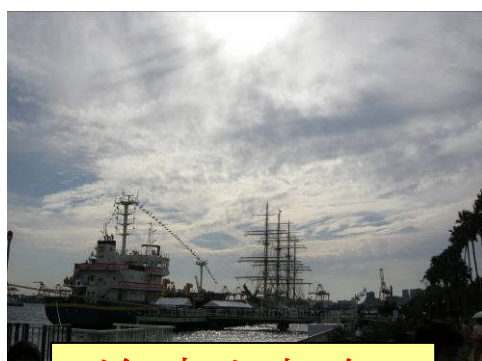


東京港 70 周年フェスティバルのクルーズ

例年 5 月に開催していましたが、東京港のみならず祭りが本年は東北大震災により中止しましたが、本年は東京港開港 70 周年に当たるため、10 月 22、23 日に青海船客待合所、船の科学館周辺を会場として開催されました。新造された直営浚渫船「海竜」の公開や消防艇・沿岸警備艇の公開、海やみなとに関する出店等がありました。この行事の一環として、東京港内のクルーズ体験乗船が行われました。NPO には、このクルーズ船のうち下記 4 隻での東京港案内を港湾局より依頼され、9 名の NPO メンバーが参加しました。



船内の様子



海竜と帆船



レディクリスタル



シンフォニークラシカ

乗船人員と説明者等について

	10月22(土)		10月23日(日)	
船 名	④レディクリスタル	① 海舟 (サンセットクルーズ)	⑥シンフォニークラシカ	①海舟 (サンセットクルーズ)
案内等	・ 10時30分発 ・ 約1時間案内 ・ 青海発着	・ 16時10分発 ・ 約1時間案内 ・ 青海→日の出	・ 10時発 ・ 約1時間案内 ・ 日の出発着	・ 16時10分発 ・ 約1時間案内 ・ 青海→日の出
乗船人員	・ 約150名	・ 約400名	・ 約200名	・ 約400名
説明者	高野一男 大畑 博	小倉隆治 手島道人	大野皓一郎 清水武雄 高見憲一	柿崎修一 林 貞夫

「めでたさ少々 開港70周年」

今年の3月11日に東北大震災が発生した。未増有の厄災であり、失われた多くの命を悼むとともに早い復興を祈るばかりである。

今年は、東京港にとって開港70周年の節目の年にあたる。記念のイベント等は、時節柄中止や延期となった。

これまで一番盛大にイベントを実施した年は、20年前の平成3年のこと。開港50周年記念だった。

局をあけて編集委員会をたちあげて、分厚い「東京港史」発行した。

また、おおみそかの夜に祝賀会を晴海ふ頭でおこない、盛大に花火を打ち上げ、喜多郎氏が太鼓をたたくなど大いに盛り上がった。当時は活力に満ち、埋立会計も余裕があったようである。都単費で施設を作れたほどだ。

それから20年、東京港は大きく変わった。

当時計画された施設や街がほぼ出来上がってきている。

ふ頭再開発、臨海副都心のビル群、ゆりかもめ、レインボーブリッジ、大井コンテナ埠頭の再整備、新海面処分場、高潮施設の拡充、臨海トンネル等々だ。

高台から東京港を展望すると外国にいるような気さえしてくる。しかし、都港湾局の財政

は、これらの建設費の負担や地価の下落等により残念ながら苦しい状況にある。

「ゆりかもめ バブルの街を走りぬけ」

東京港は50年以上大型台風や大地震の直撃を受けてない。今回も震源地から離れていたため、想定内の揺れでおさまった。液状化については新木場を除いて被害は少ないようだ。臨海副都心エリアについては、あらかじめ専門の学者先生方の指導を受けきちんと対策をしてきた。これらは港湾局職員で、長年軟弱地盤研究を続け博士号を取得した清水恵介氏が、常に適切に助言をしてくれたおかげである。改めて闘病中の氏に感謝したい。

今後、東京にも大地震が来ると予想されている。今回、局では地震波など貴重なデータを得たいと聞く。今の施設は耐震性を有しているが、念のため改めてチェックし災害に強い東京港にしてほしいと願う次第である。



事務局

事務局長
事務局

大野 皓一郎
清水 武雄

090-6018-1013
090-3427-0370



平成23年もおしせまり、残るところ後1ヶ月になりました。本年は東日本大震災や超円高の進行、TPPへの参加問題等いろいろなことが起こった1年でした。当NPOにおいても講演会や勉強会の開催、東京港70周年事業や、港湾局イメージアップ事業への参加等会員各位の御協力により各種活動をしてきました、今後とも会員の皆様の積極的な参加を期待しております。